広報南国
編集発行 南国市役所
電話(代表)451番
印刷所 安岡印刷所

広報は…………みんな読むもの…………つくるもの

市金庫まづ県信連に
—臨時市議会で正副議長再選—

南国市の臨時議会は、十一月二十九日に開らかれ市金庫設置など議案が提案された。

市金庫及び専決処分の承認など原案通り即日議決されたが、正副議長の改選については、人選で難航し結論がでず、一日延期された。

十二月一日に結局、議長に野口、副議長に井上（満）両氏がともに再選され、常任委員などの改選なども行われた。

特に市民の注意の的であつた。市金庫は競願のあつた高知県信用農業協同組合連合会と四国銀行とが相譲らないため、ともに一ケ年間の交替で行い、三年目は白紙にもどし、利益の多い方に定める旨の附議条件によりまづ明年一月一日より向こう一ケ年間は県信連に、翌三十七年間は四国銀行に、それぞれ市金庫の事務取扱いをさせるよう議決した。

かんばしくなかつた投票率
有権者の自覚にのぞむ

十一月二十日に行われた衆議院議員の選挙の際における南国市の投票者総数は二〇、九三九人（男九、九九〇人、女一〇、九四九人）棄権者数七、一八三人（男三、一六七人、女四、〇一六人）、投票率は七四、四六％（男七五、五三％、女七三、一六％）で、あまりかんばしくなく今後、有権者の自覚をのぞまれている。

今度の選挙で最高は第三十七投票区の奈路で九七、〇二％、最低は第二十四投票区の長岡東部の四五、四七％となつている。各投票所の投票率は下の表の通り。

投票所	男	女	計	投票所	男	女	計
1田村	83.25	73.04	77.79	24長岡東部	47.80	43.52	45.47
2立田	80.48	79.59	80.00	25東光寺	52.03	49.39	50.64
3物部	66.36	76.55	72.77	26西福寺	58.85	52.14	55.23
4久枝	72.76	78.51	74.24	27東崎外	62.47	58.46	60.30
5能間外	75.75	75.15	75.43	28小籠外	75.77	73.68	74.65
6竹中	83.07	82.02	82.50	29国府	73.94	68.06	70.83
7篠原	85.84	83.59	84.80	30植田	81.18	85.06	83.02
8明見	87.00	86.32	86.64	31久礼田	71.97	68.18	69.93
9衣笠外	77.09	73.71	75.34	32領石外	77.36	79.10	78.29
10小久保外	74.02	77.77	75.98	33亀岩外	78.69	76.05	77.37
11楠上外	79.08	74.48	77.00	34成合外	83.33	78.95	81.20
12剣尾外	91.11	76.40	82.78	35白木谷	82.43	70.69	76.43
13八丁外	78.39	80.76	79.63	36八京	92.59	85.00	88.60
14片山	86.19	89.17	87.78	37奈路	97.46	96.58	97.02
15里改田	80.84	78.26	79.47	38中谷外	77.89	71.43	74.61
16中の丁外	70.13	69.19	69.62	39黒滝外	72.00	61.00	66.50
17本村外	76.92	79.91	74.25	40八幡外	73.60	71.90	72.70
18浜田	79.58	68.14	73.46	41定林寺外	77.34	74.00	75.78
19寺家外	75.40	71.13	72.85	42中島外	34.00	70.25	71.97
20下田村	79.69	72.72	76.01	43野田	87.50	85.26	86.21
21後免	76.10	73.62	74.66	44包末外	83.33	79.26	81.22
22陣山外	80.30	75.74	77.85	45堀の内外	78.03	76.80	77.38
23三畠	82.67	77.82	80.08	平均投票率	75.93	73.16	74.46

久礼田体育会優勝
市長旗争奪ソフト

第三回南国市長旗争奪ソフトボール大会は、晴天に恵まれた十二月三、四日の二日間高知農業高校と長岡小学校両グランドで開催された。

本大会は、高知県東部ソフトボール支部と市教育委員会の主催で行なわれ、十六チームが参加し、久礼田体育会が優勝した。成績次の通り。

準決勝 日章7～2十市 久礼田6～3市役所
優勝戦 久礼田16～9日章

議会常任委員選任

十二月一日の臨時議会で改選された議会の常任委員は次の通り
（〇印は委員長、△印は副委員長）

総務常任委員（八名）
〇橋本一二三、△松木二郎、永田良水、満淵亀吉、岩原隆雄、平田良広、沢村武一、野口幸重

建設常任委員（七名）
〇井上可澄、△久米徳幸、橋田信夫、小川良水、福田藤茂、徳永安雄、土居熊治

産業経済常任委員（七名）
〇中田清茂、△川田鉄次、浜田善治、吉本豊、北村広喜、吉川清司、島内稲喜、

教育常任委員（七名）
〇高木正延、△北岡博、山下熊太郎、吉村雅男、浜田勇、村上茂尚、井上満吉、

なお議会運営委員会の委員は次の十名となつた。
〇土居熊治、△高木正延、北岡博、浜田善治、北村広喜、小川良水、沢村武一、平田良広、井上満吉、野口幸重

引揚者の国債で—生業資金が借れる

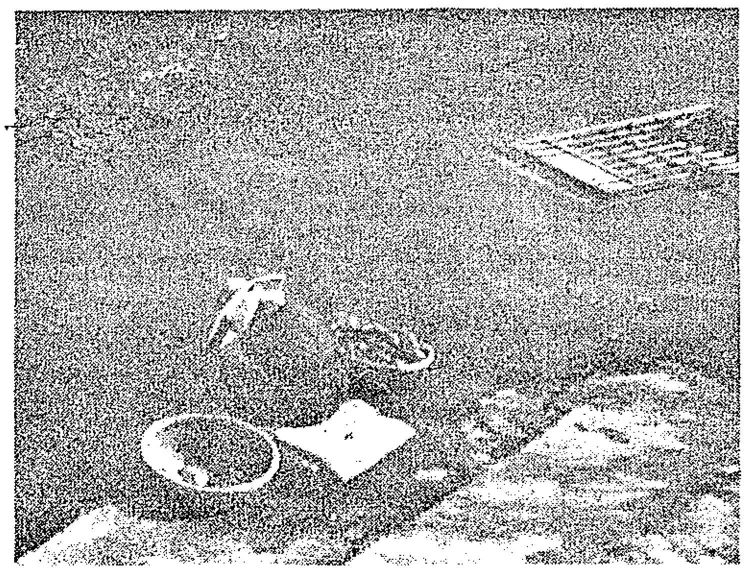
〇引揚者給付金（遺族給付金を含む）の手続が認定された方で、生業資金を必要とする時は国民金融公庫（高知支店）で国債を担保とし資金を借ることができます。

現在相当余裕があるようですから希望者はお申込下さい。

貸付金額は二万八千円の額面で一万八千円、二万円のものは一万三千円というようになつています。

〇引揚者給付金（遺族給付金）の請求は、明年五月十六日で時効となり請求権がなくなり請求することができません。

まだ手続をとつてない方はすぐその手続をとつて下さい。くわしいことは市民課厚生係でお問合せ下さい。



…・イモ洗う後川…・

市役所の人事異動

市では、財政課の総務課えの統合とともに、財政課長補佐制度及び、議会事務局次長の廃止など、機構改革の一端を含め、人事の刷新を計るるために十二月五日付で総数四十九名にのぼる職員の異動を行つた。

係長以上は二十四名で、次のとおりである。

（総務課）
庶務係長（議会事務局次長）田岡信雄、総務課付（財政課長）前田春義、用度係長（領石支所第二係長）山下泉、財政係長（財政課長補佐）二宮博男、理財係長（財政係長）島内日出見、理財係主任（十市支所長）土居美夫、

（税務課）
第一係長（税務課市民税係長）西川武夫、第二係長（税務課長補佐）山本泰一郎、第一主任（税務課徴収係長）北村泰博、第二主任（税務課固定資産係長）岩崎旅、

（市民課）
国民年金係長（福祉事務所社会係長）沢村泰誠、窓口記録係長（総務課庶務係長）東村達夫、国民健康保険係長（総務課長補佐）中沢健、厚生係長（福祉事務所次長）橋村重春、窓口記録係主任（戸籍係長）和田幸重、

（産経課）
商工水産係長（農林係長）坂本延男、農林係長（岡豊支所長）岩原龍来、

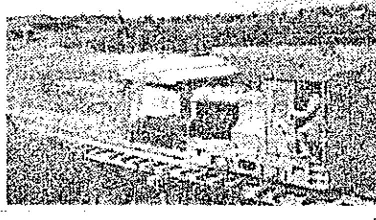
（建設課）
庶務係長（建設課長補佐）田岡高行、水道係長（領石支所第一係長）垣内英伸、庶務主任（建設課水道係長）井上克幸、

（福祉事務所）
次長兼庶務係長（産経課長補佐）国沢守通、社会係長（市民課長補佐）高木利弥、日章出張所長（三和支所長）岡田亀樹、南部（三和）支所長（商工水産係長）西川利男、

久枝漁港建設へ
物部川護岸工事一役

市では漁業振興の一つとして、物部川口に漁港（船だまり）の建設を計画。すでに用地の売収を終り、工事中の物部川護岸も築港に一役果たしてもらうよう建設省に陳情していたが、この希望が入れられ、秋から港敷きは護岸埋め立て用の土砂を取るため掘り取り工事が行なわれている。

これがため、三億円といわれる工費も相当軽減され、一石二鳥をあげるわけ。



＝写真は港敷きの掘り取り工事

白木谷鉱山 12月採鉱
無尽蔵の石灰石

市北部の石灰資源開発は、最近活発となり国見鉱業、亀岩鉱業、関西鉱業、四国鉱発などの四社が四億円からの事業費を投下している。

このうち四国鉱発の規模がもつとも大きく、投下資本は三億円近いといわれ、十二月から採鉱する計画。

事業所は上倉地区白木谷の小薮山で埋蔵量は無尽蔵。強力な四台のブルドーザーを山に入れ、採鉱施設をはかどらせた。

採鉱は山の上から穴を掘つて、穴の周囲を採鉱して下におとし、この穴は横からはいつたトンネルと結ばれているから穴の下に鉱車を持つてきて置けば自然に積載できる仕組み。

鉱石は七百メートル離れた貯鉱槽にチーゼル機関車で運ばれ、ここからトラックで高知港に送られる。

なお鉱石は県内、外でカーバイトやセメント原料として使われるが、住友金属工業に輸送されるものがもつとも多く、これは製鉱用となる。

写真は小薮山と到着した採鉱機械の一部

ねずみクジ大売れ

十一月に始まつた、県下一斉のネズミ駆除運動はこの十日に終つた、その戦果は県下で六、七十％といわれるが、市は目標額一万四千三百匹を突破し、一万七千四十七匹で百十五％に達した。

一匹から始まり、一人で二百匹を数えるというものもあつて、ネズミくじが足らなくなつたという、チユウ族にとつては悲しい月間であつた。

高知農校創立七十周年

市内東崎の県立高知農業高等学校は創立七十周年を迎え、十一月二十三日同校講堂で各方面の来賓、父兄、同窓など多数を迎え盛大な記念式を行なつた。

同校は明治二十三年高知市に設けられ、当時は二年制で高知県農学校と呼ばれた。そして簡易農学校、農林学校と改称されたが大正十年県立農業学校となり、それが昭和二十三年県立高知農業高等学校と改められるまで続いた。現在のところに移転したのは大正十二年といわれる。三十四年度までの卒業生は計六千七百五十余人。また現在の生徒数は千六十人にのぼつている。＝写真は同校本館

話題

一年余りもみにもんだ、市金庫もようやく曲がりなりにも一応一年交替で三年目にいづれかに決めるという変そく的な下駄をあづけられた形でケリがついた。しかし利益の多い方に将来をまかすということであるから、信連にしろ、四銀にしろそれぞれの一ケ年間は、血のでるようなサービスをすることだろう。そのサービスの内面をあえてよく知ることが、今後にゆだねられた大切な事柄ではなかろうか。二年後における最終的決定の際にまたこのような事態が起こらないとも考えられないではあるまいか農民には農民の考えがあり商人には商人の考えがある。まして市には執行部と議員としての考え方があるだろう。だからこそいろいろととりざたされてやかましくなつてくる。まだつづく冷戦をどのように結着させるか、重大なことが今後の課題としてのこされたものだ。

▼こゝ数週間市の職員の動向がなんとなく落着きがなくさわがしい聞けば人事異動があるので仕事に精がでないという、なかには極秘であるべき人事を漏らすものがあるらしく、あれよあれよと話が大きくなつてくる。当事者にとつては迷惑しごく仕事したくてもなんだか気乗がしないのは人情のつねだ。異動に際して各種委員会などに対し、人事の交流の交渉をする、そのようなところから漏れるのではないだろうか。知つたからといつてそれを誰かれにいわなくてもよいのではないか今後における人事異動は迅速に、かつ絶体漏れることのないよう心掛けてやつてもらいたい。異動があることは百も承知のはずである職員が、なぜさわぐのか不思議でならぬ。なかには不利益となるものがあるかも知れないが、それにはそれの手続があるはずである。何処にいつても恥じることのないよう常日頃の勉強が必要ではないか。適材適所の人事管理の配慮もあつてよいものだ。